



発行者 岩手県曹洞宗青年会 伊藤寛英
発行所 岩曹青事務局 岩手県花巻市東和町安俵5区90(凌雲寺内)
TEL 0198-42-3055
FAX 0198-42-2928
題字/宗務所長 佐々木端瑛
編集/事業部

平成三十年度
歳末助け合い托鉢

昨年十二月十日(月)、一関市安養寺様を会場に、会員と奥州市正法寺様の雲納さんと共に三十数名にて歳末助け合い寒風托鉢を行いました。

この度、托鉢をした貌鼻溪がある東山町は、平成十四年や平成二十五年など昔から度重なる水害にみまわれ、住民の方々が大変な思いを生活されていました。しかし、今では被害を感じる事無く復興しており、雪がちらつく中にも拘らず、沢山の方々に浄財を頂きました。

施しを頂いた後に唱える、「施財の偈」は次のような意味があります。

財法二施 功德無量 檀波羅蜜
具足円満 乃至法界 平等利益

(布施と法施は多くの功德を生み、尊い行いをする者は心満たされ、その功德は世界を普くより良くする)

この地に生活する人達の他人を思う温かな心と困難にも負けずに生きるという思いに触れ、法施する側の者として改めて仏道に励まなければいけないと思えました。

尚、集まりました浄財につきましては、伊藤寛英会長により社会福祉協議会様へ寄付させて頂きました。





歳末助け合い托鉢 写真



東北大会



去る、平成三十年十一月十二日(月)、第四十三回曹洞宗青年会東北地方集会「山形大会」が開催されました。今大会は「伝燈」を思いをつなげる」をテーマに掲げ、記念式典に於いては「世代をつなぎ、世界をつなぐ、思いの体現者として共に歩むこと」を参加者一同、誓願いたしました。

記念事業として第一部では公益社団法人シャントイ国際ボランティア会の山室仁子氏による「思いをつなげる国際ボランティア」の演題にて、



共に関大会のテーマ「思いをつなげる」を体現した素晴らしいものでした。

近年、東北地方では大規模な災害が被災し「東北はひとつ」のスローガンが

ミャンマーの学校建設にいたる経緯や現況について講演され、国、民族、諸々の違いを越えて助け合う大切さを感じました。第二部では雅楽師の東儀秀樹氏と、チェロリストの溝口肇氏による競演コンサートを鑑賞し、それぞれ和と洋の伝統を大切にしながらも、其の二つ楽器が織成す音色に魅了されました。



現在の日本は、高齢化社会を迎えています。

平成二十八年の人口推計では、65歳以上の人口は3459万人で、高齢化率は27パーセントを超えます。

第一回 教養セミナー

ガンのもと、慰霊法要、ボランティア活動等を行ってまいりました。今大会で学び感じた事を青年会活動に活かし、そして「人と人とのつながり 思いのつながり」という燈(とも)もしび)を伝えていければと思います。



昨年九月に開催された教養セミナーでは、公益財団法人岩手県予防医学協会専務理事の武内健一先生をお招きし、現在の医療政策や予防の大切さについてお話を頂きました。

セミナーでは、シルバール川柳(例「アルバムに遺影用とフセンあり」なども用いながら、どうしても暗くなりがちな医療の話を楽しく明るくお話頂きました。

盛岡市にある岩手県予防医学協会では、検診をメインに行っている武内先生ですので、特に検診、予防の重要性を強く提唱されていました。「自分で守れる命、検診で守れる命」「予防に勝る治療なし」など金言がたくさん飛び出していました。

人間は必ず死を迎えます。死を迎えるまでは、楽しく元気に生活を楽しまたいものです。

教区だより

一教区

平成三十年六月十二日に青年部会員、実相寺副住職晴山義雄師の婚礼の祝儀が執り行われました。今後の更なるご活躍をご期待しております。

二教区

平成三十年七月二十六日、鳳仙寺様にて梅花流特派講習会が開催されました。

八月二十四日、中興寺様担当（会場シンセラホール矢巾）にて梅花流地区別講習会が開催されました。

十月二十五日、常光寺様にて両祖忌法要・教区特派布教・教区護持会集会が開催されました。

十二月九日、蟠龍寺住職中野英明師住職就任三十周年祝賀会並びに、長徳寺住職佐々木端瑛師岩手県宗務所宗務所長就任祝賀会が、ホテル紫苑を会場に開催されました。

三教区

第三教区におきましては、九月二十九日に、二戸市鳳林寺様に於いて両祖忌の法要が厳修されました。

四教区

第四教区の昨年の法要行持は以下の通りになります。

・五月三十日～三十一日

春期両祖忌法要 廣濟寺様にて

・十月十九日～二十日

秋期両祖忌法要 龍澤寺様にて

・十月二十九日～三十日

開山忌結制法要 慶昌寺様にて

【山門不幸】

・大興寺 桐野好正老師 前住職

三月二日 御遷化

・凌雲寺 西川隆道老師 住職

三月六日 御遷化

・歓喜寺 深澤啓道老師 住職

（青年会顧問。第九代会長）

三月十五日 御遷化

・永明寺 上野昌孝老師 前住職

八月三日 御遷化

・稱名寺 膝館光明老師 前住職

十二月二十三日 御遷化

謹んでお悔み申し上げます。

【新会員】

・常泉寺（東和町中内）

住職 伊藤弘祥師

・東光寺（花巻市笹間）

副住職 清水祐嗣師

皆様宜しくお願い致します。

五教区

平成三十年四月八日、降誕会を光明寺様に於いて執り行いました。尚同日、青年部総会を行い、懇親会を盛大に行いました。

九月八、九日、興国寺東堂藤澤政之老師の本葬儀を厳修致しました。

十二月二十二日、歳末助け合い托鉢を厳修し、江刺岩谷呈町内を回り、集まりました浄財は奥州市社会福祉協議会へお渡し致しました。

一月十八日、光明寺様三男、佐藤元悠くんの得度式を執り行いました。

二月十五日、涅槃会を光明寺様に於いて執り行いました。

六教区

七月二十一日、安養寺様にて毎年恒例の大般若祈祷会が行われました。

十二月一日、水沢市街地にて毎年恒例の歳末助け合い托鉢を修行致しました。

十二月二十一日、そば打ち体験を行いました。

二月五～七日、名古屋研修旅行を行いました。

七教区

・平成三十年五月八日

願成寺様の降誕会花祭り

・十月一日

赤い羽根街頭募金

・十月八日

龍沢寺住職徳文（塩竈）博隆老師が御遷化されました。謹んでお悔み申し上げます。

・十月三十日～十一月一日

第七教区禅興会研修旅行（能登方面、総持寺祖院他）

・十二月六日

歳末助け合い托鉢。

八教区

・平成三十年度第三十三回みちのく禅の集い

七月三十日から三十一日にかけて、第三十三回目となる「みちのく

禅の集い」を行いました。

参加者は小学生から中学生のことも達対象で、夏休みを利用して一泊二日で青少年教化を目的に毎年開催している恒例の行事です。今年も千厩町奥玉にある安養寺さまを会場におこないました。

奥玉地区の地域のこども達を中心に沢山のこども達を迎えて開催することができました。

一泊の集いの内容は、三十日の十五時からの開講式で般若心経をお唱えするところからはじまり、その後一時間の坐禅や晩課に続き薬石のための食事指導なども行い、日ごろのこども達の生活を振り返ることのできる内容で行いました。

花火や映画の放映や参加したこども達全員ですいかを頬張ったりと夏休みの楽しい思い出にもなり、とても意義のある集いとなりました。

九教区

平成三十年、第九教区では青年会員の有志で秋田県へと赴き、東日本大震災の慰霊法要へと随喜させていただきました。秋田県青年会の皆様のご慰霊の想いや、震災復興への強いお気持ちを肌で感じさせていた

き、青年会一同復興への気持ちをより一層強くする事ができました。

平成三十一年は新会員を迎え、第九教区青年会の組織自体も強化する事ができました。県外寺院での法要随喜等の計画、布教の一環として沿岸地域での冬季托鉢なども予定されており

ます。年号が変わり新しい時代へ変化していく中で、脈々と受け継がれてきた宗門の教えを檀信徒の方々に広くお伝えする為、今後も様々な行事等を積極的に行なっていきたいと考えております。

十教区

・平成三十年五月二日、三日

常堅寺様に於いて、開山忌、先住忌、諸堂落慶法要が修行されました。

・九月十日

正福寺様に於いて、二十四世中興水月鈞雲大和尚清浄本然忌法要、二十五世重興卓見公文大和尚正当休弘忌法要、弟子瀧雲沙弥得度式が修行されました。

・八月三十日

光明寺十四世湖山祐光老師退董式が修行されました。

・九月三日付で、光岸寺住職に細川

宏貴師が任命されました。

・十月七日

大慈寺様に於いて、常楽寺ご住職藤原育夫老師、恵実様ご媒酌のもと住職菊池琢宗様、優唯様の仏前結婚式が挙行されました。

・十月三十一日

常楽寺様に於いて、山口県宗務所様をお迎えし、副所長山縣洋典老師御導師のもと復興祈念法要並びに記念植樹式を修行されました。

・十二月二十日

青年会後期研修会と致しまして、光明寺様に於いて、法要進退習儀を行いました。細かな進退、地域によって異なる部分など改めて確認、学習させて頂きました。

十一教区

第十一教区におきましては、六月二十二日、二十三日、海蔵寺様に於いて「晋山式・結制法戦式」が執り行われました。

八月二十八日、二十九日、常安寺様を会場に「両祖忌」が執り行われました。

青年会としましては、八月一日、二日、瑞雲寺様を会場に「夏休み子供座禅会」が行われ、十二月一日常

安寺様を会場に「歳末助け合い托鉢」を修行致しました。

十二教区

第十二教区におきましては三月十一日には野田村、海蔵院様に於いて被災地慰霊行脚を行わせていただきました。

十月二十五日、二十六日には東海寺様に於きまして七世横田哲宗和尚晋山・結制式、並びに六世中興法圓智行和尚本葬儀・小祥忌の大法要が厳修されました。

十一月二十八日には長泉寺様に於きまして龍神講大祭が厳修されました。海で亡くなられた方の慰霊と、大漁を祈願する法要です。船の上でのご祈祷はとても荘厳でございました。

会員では長福寺様徒弟、稲田泰貴師がご結婚されました。

梅花講員 募集

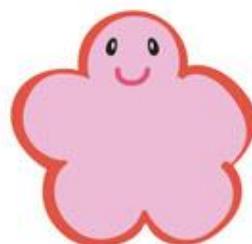


梅花流詠讚歌をはじめてみませんか？

- お友達ができました
- 仏さまを身近に感じました
- 出会いと安らぎを求めて



ばいかさ



ばいかん

■ 梅花流詠讚歌とは …

お釈迦さま・両祖さま(道元さま・瑩山さま)を讃え、ご先祖さまを敬うところを唱えます。その歌は日本の風土と暮らしの中で生まれたメロディーです。やさしく穏やかな曲で、唱えやすく安らかなところが生まれ、新たな感動がわいてきます。

問い合わせ先

※コピーしてご自由にお使いください



この度、特別顧問に就任いたしました岩手県宗務所長の佐々木端瑛です。今年度から岩手県宗務所は盛岡市報恩寺様御内に固定されました。新しい所員と共に一丸となつて宗務の円滑化が進めてまいりますので、何とぞよろしくお願い致します。

国の内外ともに激動し、先の見えにくい今日の社会情勢の中で、宗教者の役割は、大変重要なものになっていきます。特に若い皆様には、過去を振り返るだけでなく、新しい時代に対応できる、多様な視点を持ち、これからの岩手県曹洞宗をリードしてもらいたいと願っています。

これからも青年宗侶の皆様が、軌を一にして進まれることを期待しております。

〵 特別顧問就任のご挨拶 〵

◎編集後記



今号では、「梅花講員募集チラシ見本」を掲載しました。「コピーなども自由ですので、梅花講がある寺院さんもない寺院さんでも活用いただければ幸いです。

私自身、最近の活動を振りかえると、日常の檀務以外にもさまざまな活動をしてきました。その中で反響が大きかったものは、「朝の坐禅会」と「僧侶バー」です。

「朝の坐禅会」は、街中にあるお寺さんを借りて、出勤前の社会人を対象に開催しています。気軽に参加できるような仕組みで、若い人を中

心に多い時は50名、平均30名近くの方に参加いただいています。

「僧侶バー」は、不定期に開催しているイベントですが、曹洞宗だけでなく、他宗の方や牧師さんにもご協力いただいています。お寺や法事の席では話しづらいようなことも、気軽に話せる雰囲気で開催しています。おかげさまで、開催すれば毎回満席になる人気イベントになっています。

私がこれらの活動を通して感じていることは二つです。

ひとつは、「仏教・お坊さんは必要とされている」ということです。若い人の「仏教離れ」「お寺離れ」が懸念される昨今ですが、若い人の中には「坐禅に興味がある」「機会があればお坊さんと話してみたい」と思っている人が少なくありません。むしろ、機会があれば、お坊さんと仲良くなつてみたいと思う人やお寺を様々な活動の場所として利用してみたいと思っている人が多くいます。そういった方々を結び付けていくのは、青年僧侶の役割なのかもしれません。

もうひとつは、「僧侶同士の協力が必要」ということです。一人では活動に限界がありますし、できるこ



とも限られてきます。自分のできることで、できないことをお互いに助け合うことで、ものごとがスムーズに進んでいくことはたくさんあると感じています。

通信の発行は年2回しかありませんが、通信の発行を通して、岩手僧の活動だけでなく、さまざまな活動が連携して、お互いに助け合つて進めていくことの手助けができれば幸いです。

事業部長 佐々木秀吾 合掌

教区懇親会

平成三十年十一月三十一日（水）
第十二教区青年会主催により、フットサルアリーナ八戸でフットサルを行いました。

岩手県を出て青森県八戸市での開催でしたが、二十数名と沢山の参加があり、さらには龍泉寺住職石ヶ森桂山前会長様にも遠い所お越し頂きました。

日々忙しい檀務があり、なかなか運動をする機会が少ない会員の方々が、この日はおよそ二時間にわたり、フットサルの上手い下手関係なしに怪我も無く、懇親を深める事が出来ました。

僧侶となり、怪我が檀務に差し障る為に、それまで行っていたスポーツをやめてしまった方も少なくないと思いますが、やはり健康な体を維持する為に運動をする事は大切です。会員の皆様には、怪我や病気をすること無く健康にお過ごしいただきたいと思えました。

第十二教区青年会の皆様、お忙しい所、企画してくださり、真に有難うございました。



◎青年僧侶のさまざまな活動を御紹介ください

青年宗侶の皆様におかれましては、日常の法務・檀務以外にも様々な活動をされていることと思います。そういった活動を、是非、『曹青通信いわて』で紹介してみませんか？また、これから計画している活動や普段思っていることなども教えていただければ、事業部で取材させていただきます。よろしく願い致します。

問い合わせ 事業部 佐々木秀吾
メール sash@feel.ocn.ne.jp